

ボバース記念病院 リハビリテーション部

2018年10月、ボバース記念病院は小児期・青年期発症の運動障がいを持つ方々に対して、生涯にわたり一貫した医療を提供する病院（脳性まひセンター）として生まれ変わりました。その特色は、医学的エビデンスに基づきつつ、その方の個性や生活状況に応じて多職種が連携して関わるきめ細やかな治療です。

生涯にわたるサポート

小児期・青年期発症の運動障害をもつ方々に対して、生涯にわたり一貫した医療を提供します。よりよい成長を通じて、その人がその人らしい生活を送れるよう各職種が協働的にサポートすることが私たちの役割です。



リハビリテーション部の特徴



卒後教育の充実

定期的な学びの機会を設けて自身の専門性を高めます
(例：新人教育150時間)



多職種協働

各職種の専門性を共有した多面的な協働アプローチを
実践しています



子どもの生活

セラピー場面だけでなく、季節行事などを通じて子どもの生活全般に関わります